

民生環境水道常任委員会行政視察報告書

尾 関 栄 子

○静岡県藤枝市

健康マイレージをはじめとした『“健康・予防 日本一” ふじえだプロジェクト』の取り組みについて

【所 見】

藤枝市は「守る健康」を健康推進課、「創る健康」を健康企画課が担当し、互いに連携しながら、市民・事業者・行政が一体となって推進。「守る健康」は特定健康診査受診率49.6%と高く、がん検診受診率も高く、内臓脂肪症候群・メタボ率が11.5%と少なく、藤枝市民の健康関心度の高さがうかがえる。この関心の高さはどのようにしてつくられているのか。地域から1,000人（市内の12支部）の保健委員を選出。開始から50年、自治会の枠組みで30年が経過。自治会長、町内会長は充て職で、そのほかに保健委員は60～80世帯に1人配置され、これまでに2万人が経験。地域住民への拡大にはメリットがあるが、継続性の確保へのデメリットがあるとのこと。地区ごとの集団健診の受診券は、こうした自治会組織を基盤に配布され、12支部毎に高血圧予防などの講座、体操、栄養、介護予防などを年間6～14回に分けて開催。受診率が高いのはこうした取り組みが保健委員中心に行われていることの影響が大きいこと。「創る健康」は、市民の無関心層への働きかけとして「楽しい」「お得」の切り口から健康推進へとつなげ、地域・産業を振興、定住を促進する。これが、“健康・予防日本一” ふじえだプロジェクトである。

藤枝市の健康マイレージは導入後5年経過しているが、市民への浸透は一部分に限られ、健康意識を高める一手法であることを再確認した。あらゆる方法で市民とともに粘り強く、自治体にあったやり方で総意工夫を凝らし健康意識を高めていくこと。特定健診の受診率の高い理由は、長い年月をかけて住民を巻き込んで保健委員を養成し、拡大してきた役割の大きいこと。藤枝市立総合病院、地元医師会との連携があること。静岡県との連携も重要である。足利市も2016年から健康マイレージを始め、特定健診の受診率は34%と2015年（31.8%）から2.2%上昇した。今後のデータの推移を期待したいと思う。

藤枝市の保健委員と類似する足利市の生活習慣改善員は271名（内連絡員47名）で連絡会を構成し、普及啓発、各種調査など369回開催しているが、同市から学ぶべき点が多くあると考える。若い世代から中高年層までいかに健康で丈夫な体をつくるかは、市民の切実な願いである。国からの最大の自治体支援は健診などの

費用を国が補助をすることであるが、国の補助は、足利市の事例を見ても一部の健診だけである。まさに健康予防をどう展開していくのか、国・自治体・企業・市民力にかかっているのではないかと痛切に感じた視察となった。

○東京都国分寺市

国分寺市プレイステーションについて

【所見】

同施設は利用してきた人や団体、PTA、プレイリーダーが存続するように市へ働きかけ、1999年に冒険遊び場を再スタートさせた。プレイリーダーは冒険遊び場だけでなく、市内の公園にも週1回出向き、放課後の遊び場活動、乳幼児の親子で遊べる広場づくり、外遊びや室内の拠点おやこ広場で子育てサポーター・カウンセラー・助産師・利用者支援専門員を置き、気軽に遊びに来て相談できる体制もつくっている。運営に携わるプレイリーダー講習会を毎年開催。

冒険遊び場は、全て木を使って手づくりである。驚いたのは高さ2メートルほどの基地へ2歳くらいの幼児がよじ登り、飛び降りていた（マット敷きあり）。思わず「危ないと叫ぶ」ところであった。スタッフの方は「降りられない子は、登りません」と説明、納得である。近くにいる保護者は、安心して遊ばせている。プレイリーダーが2名常駐し、木や草、土、虫などできるだけ自然を残し、手づくりの木の小屋遊具があり、柿木や盛り土、焚火ができる場所、工作道具もきちんと並べられた手づくりの道具棚もあった。全ての遊具が思いのこもったものになっていることに感心した。スタッフの休憩場所、子供の休憩場所がどうなっているのか気になった。国分寺市は、この広場に1,200万円の指定管理料（委託）を支払っているとのこと。人件費に消えてしまうとのこと。市のさまざまな委託事業を行いながら運営している。今直面している悩みは、アパートや住宅ができて、「冒険遊び場」での子供たちの声やものづくりときの音などがうるさいと苦情が来ているとのこと。「冒険遊び場」周辺に住宅建設を進める会社のPRに「子供の遊び場のある住宅地である」と宣伝依頼もお願いしているとのこと。子育て環境は、どこでも窮屈になってきていることを実感。改めて「子どもは社会の宝である」と思える社会を私たち大人がつくっていかなければならないと実感した。

今回の視察で、子育てに対する市民の熱い思いと国分寺市の子育て支援は、地域のあらゆる民間活力団体、個人を支援していく姿勢が貫かれていると思った。足利市も「キッズピア」という屋内子どもの遊び場を支援しているが、国分寺市に学んで「外遊びの広場」を既成施設も含めて取り組むことが急がれる。